



令和 9 (2027) 年度

東京大学大学院工学系研究科 精密工学専攻 入試案内

Guide to Entrance Examination 2027
Department of Precision Engineering
School of Engineering
The University of Tokyo

精密工学専攻修士課程入試案内	2
Guide to Entrance Examination for Master's Program	
精密工学専攻博士後期課程入試案内	9
Guide to Entrance Examination for Doctoral Program	
精密系研究室紹介	18
Introduction to Laboratories	
試験場案内 (東京大学本郷キャンパス)	24
Campus Map for the Examination	

連絡先

Contact

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻事務室

E-mail: shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp Phone: 03-5841-6445 Fax: 03-5841-8556

Website: <https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>



令和 9 (2027) 年度
東京大学大学院工学系研究科
精密工学専攻修士課程
入試案内

Guide to Entrance Examination for Master's Program 2027
Department of Precision Engineering
School of Engineering, the University of Tokyo



令和 9 (2027) 年度
東京大学大学院工学系研究科
精密工学専攻修士課程
入試案内

1. 受け入れ人数と出願資格

令和 9 (2027) 年度精密工学専攻における各教員の受け入れ可能人数は原則として 2~3 名である。出願資格については、令和 9 (2027) 年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項を参照すること。

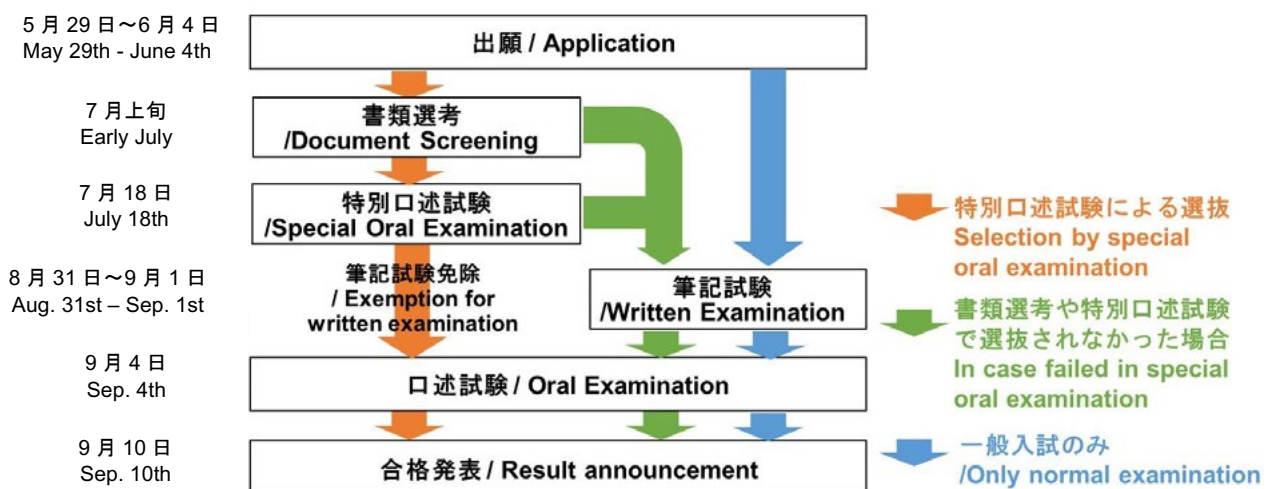
2. 入学時期

本専攻では、令和 9 (2027) 年 4 月入学のほか、令和 8 (2026) 年 10 月入学を認めることがある。10 月入学のための資格などの詳細は、令和 9 (2027) 年度東京大学大学院工学系研究科修士課程学生募集要項第 1 項の出願資格を確認すること。

3. 入試のながれ

精密工学専攻の修士課程入学試験では、一般入試(筆記・口述試験)に加え、特別口述試験に出願することができる。書類選考によって成績等が優秀と判断され、かつ本専攻への入学を第一志望とする者に対して、特別口述試験を行う。特別口述試験において選抜された志願者は、一般入試の筆記試験が免除され、その後の口述試験のみを受験することとなる。令和 9 (2027) 年度の本専攻の特別口述試験では 8 名程度の選抜者を予定している。

特別口述試験において選抜された志願者は、原則として選抜を辞退し筆記試験を受験することはできない。特別口述試験において選抜されなかった志願者は、筆記試験と口述試験の両方を受験することとなる。その際、特別口述試験での成績は筆記・口述試験による選抜に影響を与えない。



4. 特別口述試験

4-1. 指導教員の申告

特別口述試験の受験者は第 8 項に示す教員の中から、研究指導を受けることを希望する教員（指導教員）を、「指導教員申告フォーム（特別口述試験）」（<https://forms.gle/CZvaJ6Q6X2fk2TC08>）を用いて出願期間終了の 6 月 4 日（木）の午後 3 時（日本時間）までに申告すること。指導教員申告フォームには、志望する指導教員を順に 21 名（受入可能教員全員）まで申告することができる。教員ごとに受け入れ可能人数が決められており、第 2 志望以下の教員が指導教員になる場合があるが、その場合でも特別口述試験の選抜を辞退して筆記試験を受験することはできない。そのため、特別口述試験を経て合格した場合に、実際に研究指導を希望する教員のみを申告すること。

※ 書類選考や特別口述試験で選抜されず、一般入試の筆記試験を受験する場合、一般入試用に希望する指導教員の申告が別途必要になるので注意すること（項目 5-1）。

4-2. 手続き方法

特別口述試験の受験者は、一般入試に必要な書類、および「4-1. 指導教員の申告」にある指導教員申告フォームに加え、以下の事前提出資料を指定された期日までに提出すること。

- **学部等での成績証明書**

書類選考および合否判定の資料として用いるので、特別口述試験の受験者は、学部等での成績証明書を出願時に提出すること。

※ 本専攻では、工学系研究科の募集要項に追加して、本学工学部卒業（見込）者にも成績証明書の提出を求めているので注意すること。

※ 高等専門学校の専攻科在籍者は、本科 4・5 年次および専攻科 1 年次の成績証明書を提出すること。

- **成績集計表**

成績証明書の出願時の提出に加えて、成績証明書の記載内容を専攻指定の成績集計表に要約し、2026 年 6 月 19 日（金）午後 5 時（日本時間）までにアップロードすること。成績入力用の書式とアップロードサイトの URL は、出願受付の開始までに、精密工学専攻のウェブサイトに掲載する。

- **英語スコア（TOEFL iBT, TOEIC L&R, IELTSs）**

TOEFL（TOEFL iBT[®], TOEFL iBT Special Home Edition）、または IELTS, TOEIC のスコアで、2026 年 6 月 19 日（金）までに WEB 出願システムにて提出されたスコアを有効とする。

- ・ TOEFL スコアの提出方法：「令和 9（2027）年度東京大学大学院工学系研究科入試 TOEFL スコア提出要項」を参照し、Test Taker Score Report (PDF)をアップロードすること。TOEFL 公式スコア（工学系研究科および本専攻に送付されるスコア）の到着は、同期限の限りではない。

- ・ IELTS スコアの提出方法：IELTS Academic, または IELTS Indicator の IELTS 成績証明書（Test Report Form）を電子化し、アップロードすること。IELTS 受験日が 2024 年 9 月以降のスコアを有効とする。

- ・ TOEIC スコアの提出方法：TOEIC Listening & Reading の紙の公式認定証（Official Score Certificate）を電子化したもの、あるいはデジタル公式認定証をアップロードすること。なお、Institutional Program のスコアの提出は認めない。TOEIC 受験日が 2024 年 9 月以降のスコアを有効とする。

- **調査票**

①学部時代に行った学術的な活動（卒業研究を除く．後述の例を参照のこと）および②希望分野での将来貢献への展望について記入し、2026年6月19日（金）午後5時（日本時間）までにアップロードすること．

学術的な活動の例

- ・授業等に関わるプロジェクト演習・自主探求
- ・学園祭等での制作発表
- ・留学先での活動体験
- ・企業や大学等でのインターン
- ・サークル・部活等
- ・その他、考えられる学術活動

調査票の書式とアップロードサイトの URL は、出願受付の開始までに、精密工学専攻のウェブサイトに掲載する．

4-3. 書類選考

提出された書類に基づき、書類選考を行う．書類選考の通過者は、12名以上16名以下程度を予定している．書類選考の結果は2026年7月上旬に精密工学専攻のウェブサイトに掲載する．

4-4. 特別口述試験と選抜者の決定

書類選考の通過者に対して、特別口述試験を2026年7月18日（土）に本郷キャンパスにて対面で日本語にて行う．特別口述試験の試験室や集合時間等の詳細は、精密工学専攻のウェブサイトに2026年7月上旬に掲載する．

特別口述試験、提出書類、指導教員申告フォームを総合的に考慮し、選抜者の決定を行う．2026年7月26日（日）までに結果を電子メールにて通達する．選抜された者は、一般入試の筆記試験が免除される．ただし、一般入試の口述試験は受験しなければならない．

5. 一般入試（筆記・口述試験）

5-1. 指導教員の申告

一般入試の筆記試験を受験する受験者は、第8項に示す教員の中から、研究指導を受けることを希望する教員（指導教員）を、「指導教員申告フォーム（一般入試）」(<https://forms.gle/2NXbnuDFHqq2xhPK7>)を用いて8月18日（火）17時までに申告すること．指導教員申告フォームには、指導教員を志望する順に21名（受入可能教員全員）まで申告することができる．教員ごとに受け入れ可能人数が決められているので、第2志望以下の教員が指導教員になる場合がある．また、志望が集中する指導教員だけを志望した場合は、不合格となる可能性がある．

※ 特別口述試験を受験する場合、出願期間内に、特別口述試験用の指導教員の申告が別途必要になるので注意すること（項目4-1）．

※ 特別口述試験の選抜者は、上記の指導教員申告（一般入試）は不要である．

5-2. 手続き方法

工学系研究科修士課程学生募集要項で求められている書類（入学願書等）を提出し、「5-1. 指導教員の申告」にある指導教員申告フォームに入力すること。

5-3. 選考方法

試験は、筆記試験（数学、物理学、外国語（英語））および口述試験からなる。

- ・筆記試験（数学、物理学）は、原則として試験会場（東京大学本郷キャンパス）で実施する。数学は各分野から出題される6問の中から3問を選んで解答する。物理学は全問を解答する。
- ・筆記試験（外国語（英語））は TOEFL（TOEFL iBT[®], TOEFL iBT Special Home Edition）, または IELTS, TOEIC のスコアの提出によって替えるものとし、2026年8月18日（火）までに本専攻で確認できるスコアを有効とする。なお、本期限内であれば、提出スコアを差し替えることができる。4項の書類選考や特別口述試験にて選抜されなかった受験者についても、一般入試の筆記試験用に使用する英語スコアに差し替えることができる。
- ・TOEFL スコアの提出方法：「令和9（2027）年度東京大学大学院工学系研究科入試 TOEFL スコア提出要項」を参照すること。
- ・IELTS スコアの提出方法：IELTS Academic, または IELTS Indicator の IELTS 成績証明書（Test Report Form）を電子化し、WEB 出願システムからアップロードすること。IELTS 受験日が2024年9月以降のスコアを有効とする。
- ・TOEIC スコアの提出方法：TOEIC Listening & Reading の公式認定証（Official Score Certificate）を電子化したもの、あるいはデジタル公式認定証を WEB 出願システムからアップロードすること。なお、Institutional Program のスコアの提出は認めない。TOEIC 受験日が2024年9月以降のスコアを有効とする。

6. 試験日程

特別口述試験

7月18日（土）

試験会場および時間は書類選考通過者に別途通知する

筆記試験（数学、物理学の2科目をすべて受験すること。）

試験会場：工学部14号館1階精密工学専攻講義室（予定）

8月31日（月）13:00~15:30 数 学

9月1日（火）13:00~15:00 物理学

口述試験（研究内容・計画、志望動機、抱負等）

9月4日（金）オンライン試験※

※ 接続テストを9月2日（水）に行うので、必ず出席すること。詳細は追って通知する。

- ・特別口述試験の選抜者、および筆記試験の成績上位者のみ口述試験を実施する。
- ・口述試験の対象者とスケジュールは9月4日（金）8時45分までに精密工学専攻ホームページに掲載する。
- ・口述試験の段階で本専攻に入学する意思のない者は、口述試験を受験しないこと。

* 修士課程についても、【出願日程 B】（2月入試）での募集を実施する場合がある。実施の有無については、10月1日頃に工学系研究科 Web サイトで告知する予定である。

(<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/study-at-utokyo/soe/apply/guideline>)

7. 入試説明会

入試説明会を本案内 18 ページの日程で行う予定である。

8. 指導教員とその専門分野

本入試において学生の受入れを予定している教員とその専門分野は次の通りである。

(参照：<https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>)

2026年4月1日現在

教員	所属	専門分野
飯田 史也 教授	精密(本郷)	生物規範型ソフトロボティクス、身体知能科学、AIロボティクス
伊藤 寿浩 教授	精密(本郷)	IoTデバイス集積化、マイクロセンサシステム、センサネットワーク
今城 哉裕 講師	精密(本郷)	音響細胞工学、再生医療、メカノトランスダクション
梅田 靖 教授	精密(本郷)	設計学、ライフサイクル工学、知的生産システム工学
木下 裕介 准教授	精密(本郷)	シナリオ設計、ライフサイクル工学、設計工学、エコデザイン
小林 英津子 教授	精密(本郷)	医用精密工学、コンピュータ外科
小山 裕己 准教授	精密(本郷)	コンピュータグラフィックス、ヒューマンコンピュータインタラクション
高橋 哲 教授	精密(本郷)	光応用ナノ加工・計測、局在光制御、セルインマイクロファクトリ
細島 拓也 准教授	精密(本郷)	超精密ダイヤモンド切削加工、曲面・微細パターン創成、中性子光学
道畑 正岐 准教授	精密(本郷)	3次元形状計測、光応用加工計測、ナノ精度計測
森田 剛 教授	精密(本郷)	生体超音波、強力超音波応用、機能性材料応用デバイス
山本 道貴 准教授	精密(本郷)	マイクロシステム、3次元集積化、E-textile
太田 順 教授	人工物(本郷)	ロボット工学、身体性システム科学、生産システム工学
大竹 豊 教授	人工物(本郷)	形状処理、コンピュータグラフィックス、X線CT
原 辰徳 准教授	人工物(本郷)	サービス工学、製品サービスシステム、生産システム工学
富井 直輝 准教授	先端研(駒場)	医用精密工学、情報生体工学、画像解析
三村 秀和 教授	先端研(駒場)	超精密加工、X線光学
梶原 優介 教授	生研(駒場)	異材接合、界面工学、赤外・テラヘルツ工学
金 秀炫 准教授	生研(駒場)	マイクロ流体システム、生体試料分析、マイクロ総合分析システム
金 範埃 教授	生研(駒場)	マイクロ要素構成学、バイオMEMS、ナノバイオセンシング
新野 俊樹 教授	生研(駒場)	3Dプリンティング、樹脂金属複合体製造技術、Additive Manufacturing、プロダクトデザイン、プロトタイピング、デザインリサーチ

精密(本郷)：精密工学専攻(本郷キャンパス)

人工物(本郷)：人工物工学研究センター(本郷キャンパス)

先端研(駒場)：先端科学技術研究センター(駒場リサーチキャンパス)

生研(駒場)：生産技術研究所(駒場リサーチキャンパス)

9. 問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻事務室

E-mail: shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp Phone: 03-5841-6445 Fax: 03-5841-8556

Website: <https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>



令和 9 (2027) 年度
東京大学大学院工学系研究科
精密工学専攻博士後期課程
入試案内

Guide to Entrance Examination for Doctoral Program 2027
Department of Precision Engineering
School of Engineering, the University of Tokyo



令和 9 (2027) 年度 東京大学大学院工学系研究科 精密工学専攻博士後期課程 入試案内

1. 募集人員及び出願資格

令和 9 (2027) 年度精密工学専攻における博士後期課程入試は、令和 8 (2026) 年 8 月 (出願日程 A. 以下 8 月入試) および令和 9 (2027) 年 2 月 (出願日程 B. 以下 2 月入試) にそれぞれ実施する。それぞれの募集人員は 8 月入試 12 名、2 月入試若干名である。出願資格については、令和 9 (2027) 年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項を参照すること。また、本専攻では、官公庁、民間企業等に在職のまま就学することも認めている。本専攻では、出願者を以下のように大別して選考するので、志願者は自分の出願分類に従って選考方法と選考時期を確認すること。(別表 A「試験一覧」、別表 B「出願分類(ア)(イ)における本大学院本研究科以外の研究科」及び別表 C「提出書類一覧」を参照)

- (ア) 本大学院本研究科及び別表 B に示す研究科の修士課程既修了者及び令和 8 (2026) 年 9 月 30 日までに修了見込みの者 (*注)
- (イ) 本大学院本研究科及び別表 B に示す研究科の修士課程を令和 9 (2027) 年 3 月修了見込みの者
- (ウ) 本学及び他大学を問わず学士を取得し、修士課程を経ずに入学を希望する者 (東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項第 1 項の出願資格において(6)(7)(8)に相当する者)
- (エ) 本大学院本研究科以外の修士又は専門職の学位を得た者及び令和 8 (2026) 年 9 月 30 日までに修士又は専門職の学位を得る見込みの者 (*注) (但し、別表 B に示す研究科を除く)
- (オ) 本大学院本研究科以外の修士又は専門職の学位を令和 9 (2027) 年 3 月 31 日までに得る見込みの者 (但し、別表 B に示す研究科を除く)

(*注) 2 月入試受験者においては、既修了者のみ

2. 指導教員の上承

入学志願者は研究しようとする題目および内容について研究指導を希望する教員に出願前に相談し、指導が可能であるとの上承を必ず得ること。この上承のない者は原則として不合格とする。

3. 入学時期

8 月入試を受験し合格した場合には、令和 9 (2027) 年 4 月入学のほか、令和 8 (2026) 年 10 月入学を認めることがある。10 月入学のための資格などの詳細は、令和 9 (2027) 年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項第 1 項の出願資格を確認すること。

2 月入試を受験し合格した場合には、令和 9 (2027) 年 4 月入学とする。

4. 選考方法

(1) 選考は、第一次試験及び第二次試験による。(別表A参照のこと)

(2) 第一次試験の選考方法

- ・第一次試験は、筆記試験及び口述試験からなる。
- ・筆記試験は、外国語(英語)の試験と専門に関する小論文である。筆記試験については、本大学院本研究科及び別表Bに示す研究科の修士課程既修了者ならびに修了見込み者〔(ア)、(イ)〕は受験を要しない。
- ・本学大学院修士課程又は専門職学位課程を修了した者又は修了見込みの者については、外国語(英語)試験を省略する。
- ・8月入試においては、外国語(英語)試験はTOEFL(TOEFL iBT[®], TOEFL iBT Special Home Edition)公式スコアの提出によって替えるものとし、8月18日(火)までに本専攻で確認できるスコアを有効とする。提出方法については、「令和9(2027)年度東京大学大学院工学系研究科入試TOEFLスコア提出要項」を参照すること。
- ・2月入試においては、外国語(英語)の試験は、TOEFL(TOEFL iBT[®], TOEFL iBT Special Home Edition)公式スコアの提出により替えるものとし、令和9(2027)年1月18日(月)までに本専攻で確認できるスコアを有効とする。提出方法については、「令和9(2027)年度東京大学大学院工学系研究科入試TOEFLスコア提出要項」を参照すること。
- ・小論文は、論述を中心とした内容を出題する。問題は、下記の7科目から出題され、その中から2科目を選択すること。キーワード等詳細は6月頃精密工学専攻ホームページに掲載する。

[\(https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/\)](https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/)

- ・ 計測工学
 - ・ 精密加工学
 - ・ マイクロシステム材料学
 - ・ メカトロニクス・ロボティクス
 - ・ 生産システム工学
 - ・ 設計システム工学
 - ・ バイオ・メディカル
- ・口述試験においては、今までの研究内容(予め修士論文(または相当論文)を提出したものについては、その内容を含む)と今後の研究計画に関して発表すること。その後、発表内容と本案内第6項の指示に従い予め提出された資料に対して試問を行う。発表で使用する発表概要を記したPDFファイル形式の資料を、精密工学専攻事務室 shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp にEメールで提出すること。提出期限等については、WEB出願システム上にて受験票とともに通知する。
 - ・口述試験は、令和8(2026)年9月30日までに修士課程修了見込みの者〔(ア)のうち9月30日までに修了見込みの者、(エ)のうち9月30日までに修了見込みの者〕については行わない。また、本専攻修士課程を令和9(2027)年3月修了見込みの者〔(イ)のうち本専攻の者〕に対しては原則的には行わないが、状況によっては実施する場合がある。本案内第7項の掲示を必ず確認すること。

(3) 第二次試験の選考方法

- ・修士課程既修了者で入学を希望する者〔(ア)のうち既修了の者、(エ)のうち既修了の者〕および修士課程を経ずに入学を希望する者〔(ウ)〕に対しては、第一次試験における口述試験が第二次試験を兼ねる。
- ・その他の者〔(ア)のうち9月30日までに修了見込みの者、(イ)、(エ)のうち9月30日までに

修了見込みの者、(オ)] は、修士論文(または相当論文)の内容等について試問を行う。試問においては、論文の内容と今後の研究計画に関して発表すること。試験実施方法の詳細については、追って通知する。

5. 選考時期

(1) 8月入試(出願日程A)

- ・修士課程 令和9(2027)年3月修了見込みの資格で受験する者[(イ), (オ)]に対する第一次試験は、令和8(2026)年8月31日より9月4日までの間に行われ、その合格者に対して、令和9(2027)年1月末から2月上旬に第二次試験が行われる。この場合の第二次試験の日時・場所は追って通知する。
- ・修士課程既修了者、令和8(2026)年9月30日までに修了見込みの者及び修士課程を経ずに入学を希望する者[(ア), (ウ), (エ)]に対しては、第一次試験及び第二次試験が令和8(2026)年8月31日より9月4日までの間に行われる。

(2) 2月入試(出願日程B)

- ・第一次試験及び第二次試験が令和9(2027)年1月末から2月上旬の間に行われる。日時・場所は追って通知する。

6. 提出書類

令和9(2027)年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項第7項の提出書類に加え、以下のものを提出すること。なお、提出書類は、英語で記述してもよい。(別表C参照)

(1) 8月入試の提出書類と提出時期

(a) 第一次試験に関連する提出書類

下記の書類を、令和8(2026)年5月29日(金)から6月4日(木)の午後3時(日本時間)までに、WEB出願システムにアップロードすること。書類の電子ファイルフォーマットは全てPDFファイル形式とすること。

・研究概要及び研究計画書

志願者は全員、研究概要(今までに行った研究の内容について、その概要をA4用紙1ページ程度に記したもの)、及び本専攻博士後期課程入学後の研究計画書(研究課題、研究目的、特色と意義、研究の方法などをA4用紙2ページ程度に記したもの)を提出すること。これらの書類は、研究指導を希望する教員と相談の上、研究指導を希望する教員が定める様式に基づいて志願者自ら作成すること。

・修士論文の中間報告書

本専攻以外の修士課程 令和9(2027)年3月修了見込み者[(イ)のうち本専攻以外の者及び(オ)]は、修士論文の中間報告書(A4用紙10から20ページ程度)を提出すること。

・研究実績書及び研究論文等リスト

修士課程を経ずに入学を希望する者[(ウ)]は、主要な研究実績の説明(今までに行った研究のなかで主要なものについて、その概要をA4用紙10から20ページ程度にまとめたものに主要既発表論文を添付したもの)及び研究論文等リスト(A4用紙に、学会誌研究論文、総説・解説論文、口頭発表、その他の項目に分けて示すこと)を提出すること。

(b) 第二次試験に関連する提出書類

- 修士論文または相当論文*¹

修士課程既修了者〔(ア)のうち既修了者, (エ)のうち既修了者〕については令和8(2026)年6月4日(木)午後3時(日本時間)までに, 令和8(2026)年9月30日までに修了見込みの者〔(ア)のうち9月30日までに修了見込みの者, (エ)のうち9月30日までに修了見込みの者〕については令和8(2026)年8月21日(金)午前11時(日本時間)までに, 修士論文(または相当論文)を精密工学専攻事務室 shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp にEメールで提出すること(PDFファイル形式とすること). 修士課程 令和8(2026)年3月修了見込みの資格で受験する者〔(イ), (オ)〕は, 令和9(2027)年1月26日(火)午前11時(日本時間)までに, 修士論文(または相当論文)を精密工学専攻事務室 shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp にEメールで提出すること(PDFファイル形式とすること). 修士課程を経ずに入学を希望する者〔(ウ)〕は提出を要しない. なお, 修士論文が英語・日本語以外の言語で書かれている場合には, 英語(1,200ワード以上)または日本語(2,000字以上)の要約を添付すること.

(2) 2月入試の提出書類と提出時期

- (a) 下記の書類を, 令和8(2026)年12月3日(木)午後3時(日本時間)までに, WEB出願すること. 書類の電子ファイルフォーマットは全てPDFファイル形式とすること.

- 研究概要及び研究計画書

志願者は全員, 研究概要(今までに行った研究の内容について, その概要をA4用紙1ページ程度に記したもの), 及び本専攻博士後期課程入学後の研究計画書(研究課題, 研究目的, 特色と意義, 研究の方法などをA4用紙2ページ程度に記したもの)を提出すること. これらの書類は, 研究指導を希望する教員と相談の上, 研究指導を希望する教員が定める様式に基づいて志願者自ら作成すること.

- 研究実績書及び研究論文等リスト

修士課程を経ずに入学を希望する者〔(ウ)〕は, 主要な研究実績の説明(今までに行った研究のなかで主要なものについて, その概要をA4用紙10から20ページ程度にまとめたものに主要既発表論文を添付したもの)及び研究論文等リスト(A4用紙に, 学会誌研究論文, 総説・解説論文, 口頭発表, その他の項目に分けて示すこと)を, 提出すること.

- (b) 下記の書類は, 精密工学専攻事務室 shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp にEメールで提出すること. 書類の電子ファイルフォーマットは全てPDFファイル形式とすること.

- 修士論文または相当論文*¹

修士課程既修了者については, 修士論文(または相当論文)を令和8(2026)年12月3日(木)午後3時(日本時間)までに提出すること. 但し, 修士課程 令和9(2027)年3月修了見込みの資格で受験する者〔(イ), (オ)〕は, 令和9(2027)年1月26日午前11時(日本時間)までに, 修士論文(または相当論文)を提出すること. 修士課程を経ずに入学を希望する者〔(ウ)〕は提出を要しない. なお, 修士論文が英語・日本語以外の言語で書かれている場合には, 英語(1,200ワード以上)または日本語(2,000字以上)の要約を添付すること.

*¹ 相当論文は自らが主として行った研究に関する単著の論文に限る. 学会のプロシーディングスや公表論文をそのまま提出することは認めない. 分量はA4用紙20ページ以上とする.

7. 試験日程および試験会場

(1) 8月入試（第一次試験）

(a) 筆記試験

試験会場：工学部 14 号館 3 階 146 講義室（予定）

8 月 31 日（月）13:00~15:00 専門学術（小論文）

(b) 口述試験

試験会場：工学部 14 号館 1 階 142 講義室／143 講義室（予定）

9 月 2 日（水）もしくは 9 月 3 日（木）※

※ 詳細は追って通知する。

口述試験の対象者と日時の詳細については、令和 8（2026）年 8 月 28 日（金）午前 10 時までに精密工学専攻ホームページに掲載する。

(2) 2月入試（第一次試験ならびに第二次試験）

令和 9（2027）年 1 月末から 2 月上旬の間に行われる。日時・試験会場は追って通知する。

(a) 筆記試験

1 月末から 2 月上旬の間に専門学術（小論文）試験を行う。

(b) 口述試験

1 月末から 2 月上旬の間に口述試験を行う。

口述試験の対象者と日時の詳細については、別途通知する。

8. 研究指導にあたる教員とその専門分野

別表Dを参照すること。

9. 入試説明会

入試説明会を本案内 18 ページの日程で行う予定である。

10. 問い合わせ先

不明な点は、下記へ問い合わせること。

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻事務室

E-mail: shiken@pe.t.u-tokyo.ac.jp Phone: 03-5841-6445 Fax: 03-5841-8556

Website: <https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>

別表 A 試験一覧

出身				第一次試験		第二次試験
出願 分類	研究科	既修了・ 修了見込み	専攻	筆記試験	口述試験	論文審査
(ア)	本研究科 ・別表 B	既修了者	—	なし	あり	口述と兼用 (8月 ^{*4})
		9月30日までに修了見 込みの者 ^{*3}	—	なし	なし	あり (8月)
(イ)	本研究科 ・別表 B	3月修了見込みの者	本専攻	なし	なし ^{*1}	あり (2月)
		3月修了見込みの者	他専攻	なし	あり	あり (2月) ^{*5}
(ウ)	学部卒等	—	—	あり	あり	口述と兼用 (8月 ^{*4})
(エ)	他研究科 ^{*2} ・他大学	既修了者	—	あり	あり	口述と兼用 (8月 ^{*4})
		9月30日までに修了見 込みの者 ^{*3}	—	あり	なし	あり (8月)
(オ)	他研究科 ^{*2} ・他大学	3月修了見込みの者	—	あり	あり	あり (2月) ^{*5}

*1 定員を上まわった場合、または提出された研究概要や研究計画書に疑義のあった場合に実施する。

*2 但し、別表 B に示す研究科を除く。

*3 8月入試の場合のみ適用。

*4 記載は8月入試の場合。2月入試においては1月末から2月上旬に実施。

*5 2月入試においては第一次試験の口述試験と兼用。

別表 B 出願分類 (ア) (イ) における本大学院本研究科以外の研究科

研究科	備考
本大学院情報理工学系研究科	当該研究科の全専攻を対象とする。
本大学院新領域創成科学研究科	但し、物質系専攻、先端エネルギー工学専攻、基盤情報学専攻、複雑理工学専攻、人間環境学専攻に限る。それ以外の専攻については、出願分類 (エ)、(オ) として扱う。

別表 C 提出書類一覧

出身				第一次試験				第二次試験	
出願 分類	研究科	既修了・ 修了見込み	専攻	工学系への 書類（志願 者名票な ど）	研究概要 及び研究 計画書	修士論文 の中間報 告書	研究実績書 及び研究論 文等リスト	修士論文 (相当論文)	
(ア)	本研究科 ・別表 B	既修了者	—	オンライン 上の指定の 場所へのア ップロード	○			○	
		9月30日までに修了見 込みの者*8	—		○			○	
(イ)	本研究科 ・別表 B	3月修了見込みの者	本専攻		○	*6			○
		3月修了見込みの者	他専攻		○	○			○
(ウ)	学部卒等	—	—		○		○		
(エ)	他研究科*7 ・他大学	既修了者	—		○				○
		9月30日までに修了見 込みの者*8	—		○				○
(オ)	他研究科*7 ・他大学	3月修了見込みの者	—		○	○			○

*6 口述試験のある場合は指示に従うこと。

*7 但し、別表 B に示す研究科を除く。

*8 8月入試の場合のみ適用。

別表D 研究指導にあたる教員とその専門分野

本入試において学生の受入れを予定している教員とその専門分野は次の通りである。

(参照：<https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>)

2026年4月1日現在

教員	所属	専門分野
飯田 史也 教授	精密(本郷)	生物規範型ソフトロボティクス、身体知能科学、AIロボティクス
伊藤 寿浩 教授	精密(本郷)	IoTデバイス集積化、マイクロセンサシステム、センサネットワーク
今城 哉裕 講師	精密(本郷)	音響細胞工学、再生医療、メカノトランスダクション
梅田 靖 教授	精密(本郷)	設計学、ライフサイクル工学、知的生産システム工学
木下 裕介 准教授	精密(本郷)	シナリオ設計、ライフサイクル工学、設計工学、エコデザイン
小林 英津子 教授	精密(本郷)	医用精密工学、コンピュータ外科
小山 裕己 准教授	精密(本郷)	コンピュータグラフィックス、ヒューマンコンピュータインタラクション
高橋 哲 教授	精密(本郷)	光応用ナノ加工・計測、局在光制御、セルインマイクロファクトリ
細島 拓也 准教授	精密(本郷)	超精密ダイヤモンド切削加工、曲面・微細パターン創成、中性子光学
道畑 正岐 准教授	精密(本郷)	3次元形状計測、光応用加工計測、ナノ精度計測
森田 剛 教授	精密(本郷)	生体超音波、強力超音波応用、機能性材料応用デバイス
山本 道貴 准教授	精密(本郷)	マイクロシステム、3次元集積化、E-textile
太田 順 教授	人工物(本郷)	ロボット工学、身体性システム科学、生産システム工学
大竹 豊 教授	人工物(本郷)	形状処理、コンピュータグラフィックス、X線CT
原 辰徳 准教授	人工物(本郷)	サービス工学、製品サービスシステム、生産システム工学
富井 直輝 准教授	先端研(駒場)	医用精密工学、情報生体工学、画像解析
三村 秀和 教授	先端研(駒場)	超精密加工、X線光学
梶原 優介 教授	生研(駒場)	異材接合、界面工学、赤外・テラヘルツ工学
金 秀炫 准教授	生研(駒場)	マイクロ流体システム、生体試料分析、マイクロ総合分析システム
金 範峻 教授	生研(駒場)	マイクロ要素構成学、バイオMEMS、ナノバイオセンシング
新野 俊樹 教授	生研(駒場)	3Dプリンティング、樹脂金属複合体製造技術、Additive Manufacturing、プロダクトデザイン、プロトタイピング、デザインリサーチ

精密(本郷)：精密工学専攻(本郷キャンパス)

人工物(本郷)：人工物工学研究センター(本郷キャンパス)

先端研(駒場)：先端科学技術研究センター(駒場リサーチキャンパス)

生研(駒場)：生産技術研究所(駒場リサーチキャンパス)

令和 9 (2027) 年度
東京大学大学院工学系研究科
精密系研究室紹介

Introduction to Laboratories, 2027
Department of Precision Engineering
School of Engineering, the University of Tokyo

研 究 室
紹 介

Website: <https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>

入試説明会は、以下の日程で実施する。申込方法や詳細は専攻ホームページを確認すること。なお、出願資格として説明会の出席を義務づけるものではないので、必要に応じて参加すること。

2026年4月11日(土)、東京大学本郷キャンパス、工学部14号館1階143講義室
入試説明会・研究室紹介 13:00～14:20, 本郷研究室見学会 14:20～16:20

2026年4月25日(土)、東京大学駒場リサーチキャンパス、生産技術研究所D棟大セミナー室Dw601号室
入試説明会・研究室紹介 13:00～14:30, 駒場研究室見学会 14:30～16:30

2026年5月9日(土)、オンライン開催
入試説明会・研究室紹介 10:00～11:30



飯田 史也 教授

IIDA, Fumiya

生物規範型ソフト
ロボティクス、
身体知能科学、
AI ロボティクス

知能は身体に宿る

Bio-Inspired Robotics Lab (BIRL) では、生物の基本メカニズムに学び、より知的で適応的な次世代ロボットの設計原理を探究しています。研究は、柔軟機能材料を用いたソフトロボティクスや身体知能、動物の運動に学ぶ動的制御、生体模倣筋骨格ロボット、センサーモータ協調学習、非線形力学を活かした物理リザーバ計算など多岐にわたります。これらの基盤研究をもとに、不整地での高効率脚式移動、複雑物体のマニピュレーション、食品加工や料理、農作物のハンドリング、さらにはピアノ演奏ロボットといった応用にも挑戦しています。

🏠 <https://birlab.org/>

✉ iida@pe.t.u-tokyo.ac.jp



伊藤 寿浩 教授

ITOH, Toshihiro

IoT デバイス集積化、
マイクロセンサシステム、
センサネットワーク

マイクロシステムを社会にばらまいて、人間環境をスマートに

MEMS/NEMS センサを含むマイクロシステムの実装・集積化技術をベースに、人や動物に長期間装着する生体モニタリングや、インフラなどの人工環境の状態モニタリングを行うための IoT デバイス・システムの研究開発を行なっています。

- 自立型無線マイクロシステム
- 過酷環境マイクロシステム集積化・実装技術
- 動物健康モニタリングデバイス/システム
- 産業機器モニタリングデバイス/システム
- ウェアラブル/プラグブルセンサ・実装技術

🏠 <https://impe.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ itoh@pe.t.u-tokyo.ac.jp



今城 哉裕 講師

IMASHIRO, Chikahiro

音響細胞工学、
再生医療、
メカトランスダクション

音響工学で細胞の世界に切り込む

超音波によって細胞が行うさまざまな活動をコントロールする技術を研究しています。再生医療などの医療技術から、培養食料やバイオアクチュエータなどさまざまなバイオアプリケーションの発展に貢献することを目指しています。

- 超音波による細胞の組織化
- 超音波による血管構造の構築
- 自動細胞培養システムの開発
- 細胞が感知する超音波刺激の定量化
- 細胞が超音波を感知するメカニズムの解明

🏠 <https://usdev.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ imashiro@pe.t.u-tokyo.ac.jp



梅田 靖 教授

UMEDA, Yasushi

設計学、
ライフサイクル工学、
知的生産システム工学

工学と社会をつなぐ設計・生産

工学の最終的な目標は科学技術を活用して社会に価値をもたらすことです。それを実現する行為が「設計」です。人間の知的活動としての設計や生産を支援する方法論を研究しています。特に、環境問題解決や持続可能社会実現といった社会的な課題のモデル化と設計による解決を実践的に目指します。

- 環境問題解決のための製品ライフサイクル設計支援
- 創造的な設計を支援する機能モデリングと機能設計支援
- 人工物の一生をマネジメントするライフサイクル工学
- 人を知的に支援する生産システム「デジタル・トリプレット」構築方法論

🏠 <https://www.susdesign.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ umeda@pe.t.u-tokyo.ac.jp



木下 裕介 准教授

KISHITA, Yusuke

シナリオ設計、
ライフサイクル工学、
設計工学、
エコデザイン

人と環境にやさしい未来社会を設計する

サステナビリティ (持続可能性) の実現に向けて、社会やものづくりと技術のあるべき関係を計算機上でモデル化および設計するための方法論を研究しています。現地調査や異分野との連携を通して、具体的な場を用いた実践に取り組みます。

- 持続可能な将来社会に向けたシナリオ設計方法論
- 参加型バックキャストングを用いた将来ビジョン設計手法
- サステナビリティに向けたロードマップ設計手法
- 次世代ものづくりのビジョン設計支援
- 製品・資源循環システム設計のためのシナリオシミュレーション
- デジタル技術活用型サービスシステム設計手法

🏠 <https://www.susdesign.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ kishita@pe.t.u-tokyo.ac.jp



小林 英津子 教授

KOBAYASHI, Etsuko

医用精密工学、
コンピュータ外科

生命を支えるメカトロニクス技術

人々の生活の質 (QOL) を向上させる環境・ものの実現を目指し、メカトロニクス技術を用いた低侵襲外科手術支援システムの研究を行っています。先端的かつ実用的なシステムとして、要素技術から実用化研究まで行っています。

- 低侵襲外科手術支援用ロボット・デバイスシステムの研究と実用化
- 術中生体計測システムの研究 ●術中各種情報統合とロボットへの展開
- 医療技術評価に関する研究 ●手術ナビゲーションの研究
- 生体物性計測に関する研究

🏠 <https://www.bmpe.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ etsuko@bmpe.t.u-tokyo.ac.jp



小山 裕己 准教授

KOYAMA, Yuki

コンピュータグラフィクス、
ヒューマンコンピュータ
インタラクション

数理技術を駆使したデザイン支援

最適化計算や機械学習などの数理技術を駆使して様々なデザイン活動を支援するシステムの開発を行っています。数理技術の新しい使い方や効果的なインタラクションを探索することで、デザイン活動をより高度化・効率化することを目指します。応用先としてコンピュータグラフィクス (2D/3D 映像制作、ものづくりのための 3D 形状処理など) を中心に幅広く扱います。

- ベイズ最適化などの数理手法の開発と応用 ● Human-in-the-Loop 最適化手法の開発
- 主観的選好の数理モデリング ●デジタルファブリケーションのための 3D 形状処理
- デジタルコンテンツ制作支援システム

🏠 <https://lab.koyama.xyz/>

✉ koyama@pe.t.u-tokyo.ac.jp



高橋 哲 教授

TAKAHASHI, Satoru

光応用ナノ加工・計測、
局在光制御、
セルインマイクロファクトリ

未来社会を明るく“照らす”光技術の可能性を追求する

生命誕生の源泉であり、最先端物理学発展の主役でもある“光”に着目し、光が根源的に有するツールとしての可能性を追求することで、未来社会を大きく変えうるナノマイクロ領域の新概念“光”応用技術の開発を目指しています。

- 物理機構学習 AI による機能成長型超解像光学ルーペ
- 超精密加工表面性状の局在フォトン応用ナノインプロセス計測技術
- 動的エバネッセント光分布制御によるナノ光造形法
- 局在光制御によるセルインマイクロファクトリに関する基礎的研究
- 生物 DNA 型形状形成に基づく微細機能構造創製法の研究など

🏠 <https://www.photon.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

✉ takahashi@nanolab.t.u-tokyo.ac.jp



細島 拓也 准教授

HOSOBATA, Takuya

超精密ダイヤモンド切削加工、
曲面・微細パターンの創成、
中性子光学

未来を創る精密なものづくり

主に光学素子を対象に、新しい機能を実現するための曲面や微細パターンを創出する超精密切削加工法について研究しています。新しい加工方法や工具の開発を通じて、これまで実現不可能だった形状や加工困難だった材料、または達成困難だった精度での超精密加工を可能にし、最先端の科学と産業の発展に貢献します。

- 超精密ダイヤモンド切削加工法の研究開発
- 超精密加工装置の運動最適化
- 中性子光学や天文観測装置など、最先端科学向けの光学素子の開発

🏠 <https://www.upm.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

✉ hosobata@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



道畑 正岐 准教授

MICHIHATA, Masaki

3次元形状計測、
光応用加工計測、
ナノ精度計測

超精密計測における新しい原理開拓への挑戦

これまで測定が困難であった微細スケールの精密計測、加工環境におけるインプロセス・オンマシン計測、超高精度計測を実現するための知的計測原理および精密計測原理の確立を目指した研究を行っています。特に、光学現象を利用した従来の計測性能を凌駕する新しい計測原理の探求を行なっています。

- 蛍光信号を用いた難計測構造計測/ナノインプロセス計測の研究
- プログラマブル光周波数コムを用いた形状標準の計測に関する研究
- 原子スケール分解能を持つリニアスケールの研究
- 二重周期スケールを用いた絶対リニアスケールの研究

🏠 <https://www.photon.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

✉ michihata@nanolab.t.u-tokyo.ac.jp



森田 剛 教授

MORITA, Takeshi

生体超音波、
強力超音波応用、
機能性材料応用デバイス

革新的な超音波デバイスで新しい学問分野を創成する

独自の革新的音響デバイスの開発を通じて、超音波が持つ可能性を探索しています。また、超音波エネルギーをさまざまな視点から研究し、利用することで、ロボット開発からバイオ応用まで幅広い応用先を探っています。

- 超音波出力限界の打破
- 生体への超音波照射効果の解明
- 超音波を応用した医療デバイス
- 広帯域かつマルチモード励振可能な次世代超音波発生源の開発
- 超音波モータの制御による力覚フィードバックロボットの提案

🏠 <https://www.usdev.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ morita@pe.t.u-tokyo.ac.jp



山本 道貴 准教授

YAMAMOTO, Michitaka

マイクロシステム、
3次元集積化、
E-textile

異種機能集積化による新たなデバイスの創成

ナノ・マイクロレベルでの表面/界面/構造の機能を解明し、異種機能を発現する構造を(3次元)集積/付与することで、実デバイス/システムへと応用することを目指しています。

- 表面・界面・構造の機能の解明
- 異種材料/異種機能の集積化プロセスの開発
- 直接接合を用いた異種材料直接接合技術/半導体・MEMSパッケージ応用
- 無機材料を用いた実際に着られるウェアラブルデバイスの開発

🏠 <https://impe.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ michitaka@pe.t.u-tokyo.ac.jp



太田 順 教授

OTA, Jun

ロボット工学、
身体性システム科学、
生産システム工学

実世界で動き、協調するエージェントの知能を設計する

実世界で協調して動き回るエージェントの知能ならびに運動・移動機能の解明と設計を研究対象とします。動作計画手法、進化的計算、制御工学等を理論的基盤として、相互作用するマルチエージェントシステムの設計論の構築を目指します。

- マルチエージェントロボット：群知能ロボットの行動制御など
- 大規模生産/搬送システム設計と支援：ロボットマニピュレータシステムの配置・動作設計、搬送システム設計など
- 身体性システム科学、超適応の科学、人の解析と人へのサービス：ヒトの姿勢制御機構の解析、看護業務の解析と支援など

🏠 <https://otalab.race.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ ota@race.t.u-tokyo.ac.jp



大竹 豊 教授

OHTAKE, Yutaka

形状処理、
コンピュータグラフィックス、
X線CT

デジタル化された現物データの高速かつ頑健な形状処理

計算機上で形状を扱うための技術を研究しています。主に、三次元形状スキャンングより得られた複雑な形状を表すデータを扱っており、高速・高精度・頑健な形状処理アルゴリズムの提案を目標としています。また、基盤アルゴリズムを応用したソフトウェア開発も行っていきたいと考えています。

- 表面スキャン点群や断面画像列 (CT データ) における物体表面の高精度推定
- 陰関数曲面を用いた高品質な形状表現
- 微量量に基づくスキャン形状の特徴検出
- スキャン形状からの物理シミュレーション用メッシュの自動生成

🏠 <http://www.den.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ ohtake@race.t.u-tokyo.ac.jp



原 辰徳 准教授

HARA, Tatsunori

サービス工学、
製品サービスシステム、
生産システム工学

サービスをデザインし、人と社会を知る

ものづくり、デザイン、接客、観光情報などをキーワードにサービスの研究に取り組んでいます。サービスとは「誰かのために何かをする」という行為全般のことで、製造業にもサービス産業にも共通する考え方、仕組み、工学的支援の方法について研究しています。

- 製造業とサービス：ものを介して提供されるサービスの計算機表現と設計支援
- 人によるサービス：提供者の接客スキルの可視化と教育支援、ユーザの感情分析
- サービスと共創：ユーザと一緒に価値を生み出すための仕組みの研究

🏠 <http://haralab.race.u-tokyo.ac.jp/>

✉ hara@race.t.u-tokyo.ac.jp



富井 直輝 准教授
TOMII, Naoki

医用精密工学、
情報生体工学、
画像解析

人に寄り添う医療技術を探求する

患者の生活の質を向上させ、医療現場の課題を解決する、高度な医療支援技術の実現を目指しています。生体の数理モデルと機械学習などの解析手法の組み合わせによる、新たな生体計測・制御技術を研究しています。

- 心電図解析による心臓不整脈の診断・治療技術
- 患者・医療従事者にやさしいフレキシブル超音波イメージング
- 柔軟組織を適切に操作する外科手術支援ロボット

🏠 <https://www.bmpe.t.u-tokyo.ac.jp/>

✉ tomii@bmpe.t.u-tokyo.ac.jp



三村 秀和 教授
MIMURA, Hidekazu

超精密加工、
X線光学

超精密加工で最先端科学を支える

表面科学現象、電気化学反応などさまざまな物理・化学現象を利用した、新しい超精密加工プロセスの開発を進めています。X線光学素子作製へ応用し、太陽観測用のX線望遠鏡や細胞を高分解能で観察可能なX線顕微鏡の開発を行っています。また、放射光施設 SPring-8 の強力な X 線を用いて加工現象の観察を行っています。

- ナノ精度加工・計測・転写プロセスの構築
- X線顕微鏡、X線望遠鏡の開発
- 放射光 X 線による加工現象の観察

🏠 <https://www.upm.rcast.u-tokyo.ac.jp/>

✉ mimura@upm.rcast.u-tokyo.ac.jp



梶原 優介 教授
KAJIHARA, Yusuke

異材接合、
界面工学、
赤外・テラヘルツ工学

表面・界面の現象分析と生産加工への応用

表面や界面にはさまざまな物性情報が顔を出しており、それらのフル活用を目指しています。具体的には、ナノ・マイクロ構造を利用して金属とプラスチックを接着剤レスで接合したり、表面ダイナミクス (熱など) に起因した微弱電磁波をナノ分解能で捉えたりするなど、表面や界面に関連した加工、計測技術の研究を進めています。

- 表面テクスチャを利用した金属樹脂直接接合
- 接合界面の化学的相互作用分析
- テラヘルツ偏光による樹脂内残留応力評価
- 熱をナノスケール検出する赤外近接場顕微技術
- ナノデバイス内の熱輸送検出

🏠 <http://www.snom.iis.u-tokyo.ac.jp/>

✉ kajihara@iis.u-tokyo.ac.jp



金 秀炫 准教授
KIM, Soo Hyeon

マイクロ流体システム、
生体試料分析、
マイクロ総合分析システム

分子・細胞を一つひとつ調べるマイクロシステム

マイクロ流体技術、集積回路技術、バイオテクノロジー等の異分野技術の融合による次世代分子・細胞解析システムの研究と、この新たな実験ツールを活かして生命現象の理解と医療への応用を目指して研究を進めています。

- 高機能マイクロシステムの研究
- 並列 1 細胞解析システムの開発とバイオ・医療への応用
- 1 分子検出法を用いた高感度診断デバイスの研究
- がん診断・予後を簡便にするリキッドバイオチップシステムの研究
- エクソソーム解析デバイスの開発とバイオ・医療への応用

🏠 <https://www.shkimlab.iis.u-tokyo.ac.jp/>

✉ shkim@iis.u-tokyo.ac.jp



金 範俊 教授
KIM, Beomjoon

マイクロ要素構成学、
バイオ MEMS、
ナノバイオセンシング

未来のマイクロ・ナノデバイス—その要素と構成

高機能化・高集積化のバイオセンサーチップの実現を目指して、半導体加工技術と機械的なマイクロ加工技術、自己組織化を利用するボトムアップアプローチ手法を融合したナノ構造・デバイスの製作およびそのバイオセンサとしての応用に関する研究を行っています。

- シャドウマスクを用いた多機能マイクロ・ナノパターニング
- 自己組織化単分子膜を用いたナノコンタクトプリンティング
- 保存可能な機能的マイクロプロテインチップの開発
- 単一細胞の電気・物理的特性を測る MEMS デバイスの開発
- 層流を用いた電気鍍金法によるマイクロ構造物の製作

🏠 <http://www.kimlab.iis.u-tokyo.ac.jp/>

✉ bjoonkim@iis.u-tokyo.ac.jp



新野 俊樹 教授
NIINO, Toshiki

3D プリンティング、
樹脂金属複合体製造技術、
Additive Manufacturing、

プロダクトデザイン、
プロトタイピング、
デザインリサーチ

高次機能形状の 3D プリンティング

三次元 CAD データを直接実体化する 3D プリンティング技術や、樹脂と金属など複合的材料構造をもつ部品を製造する技術など、新しい加工法の研究を行っています。また、これらの技術を用いて高次の機能形状を実体化し、新しい機能をもったメカトロデバイスや組織工学 (再生医療) 用のデバイスを創出することを目指します。

- 付加製造に関わる工法や材料の開発と高度化
- 組織工学 (再生医療) 用担体の 3D プリンティング
- ラピッドマニュファクチャリング
- 射出成形の高度化によるアクチュエータや流体デバイスの製造

🏠 <http://lams.iis.u-tokyo.ac.jp/>

✉ niino@iis.u-tokyo.ac.jp

* 檜垣准教授と合同運営を行っています。檜垣准教授の研究テーマで指導を受けたい学生は、新野研究室を志望してください。



檜垣 万里子 准教授
HIGAKI, Mariko

プロダクトデザイン、
プロトタイピング、
デザインリサーチ

プロダクトデザインで人と技術を繋ぐ

プロトタイピングを通じて人を知り、社会や生活に何が必要とされているのかを探求します。人と技術を繋ぐ製品・サービスをデザインするなかで、デザインメソッドの応用や、意匠デザインの仕組みを研究します。

- プロトタイプを使用したコミュニケーションとリサーチ
- デザインメソッドの応用と研究
- 素材・加工法と意匠の関係についての研究
- 「観察スケッチ」によるデザイン分析

✉ higaki@iis.u-tokyo.ac.jp

精 密 (本郷) : 精密工学専攻 (本郷キャンパス)
人工物 (本郷) : 人工物工学研究センター (本郷キャンパス)
先端研 (駒場) : 先端科学技術研究センター (駒場リサーチキャンパス)
生 研 (駒場) : 生産技術研究所 (駒場リサーチキャンパス)

試験場案内 (東京大学本郷キャンパス)

Campus Map for the Examination
(Hongo Campus, the University of Tokyo)

地下鉄利用 Subway

本郷三丁目駅(地下鉄丸の内線)徒歩20分

Hongo-sanchoe Station (Subway Marunouchi Line) 20min. walk

本郷三丁目駅(地下鉄大江戸線)徒歩20分

Hongo-sanchoe Station (Subway Oedo Line) 20min. walk

根津駅(地下鉄千代田線)徒歩15分

Nezu Station (Subway Chiyoda Line) 15min. walk

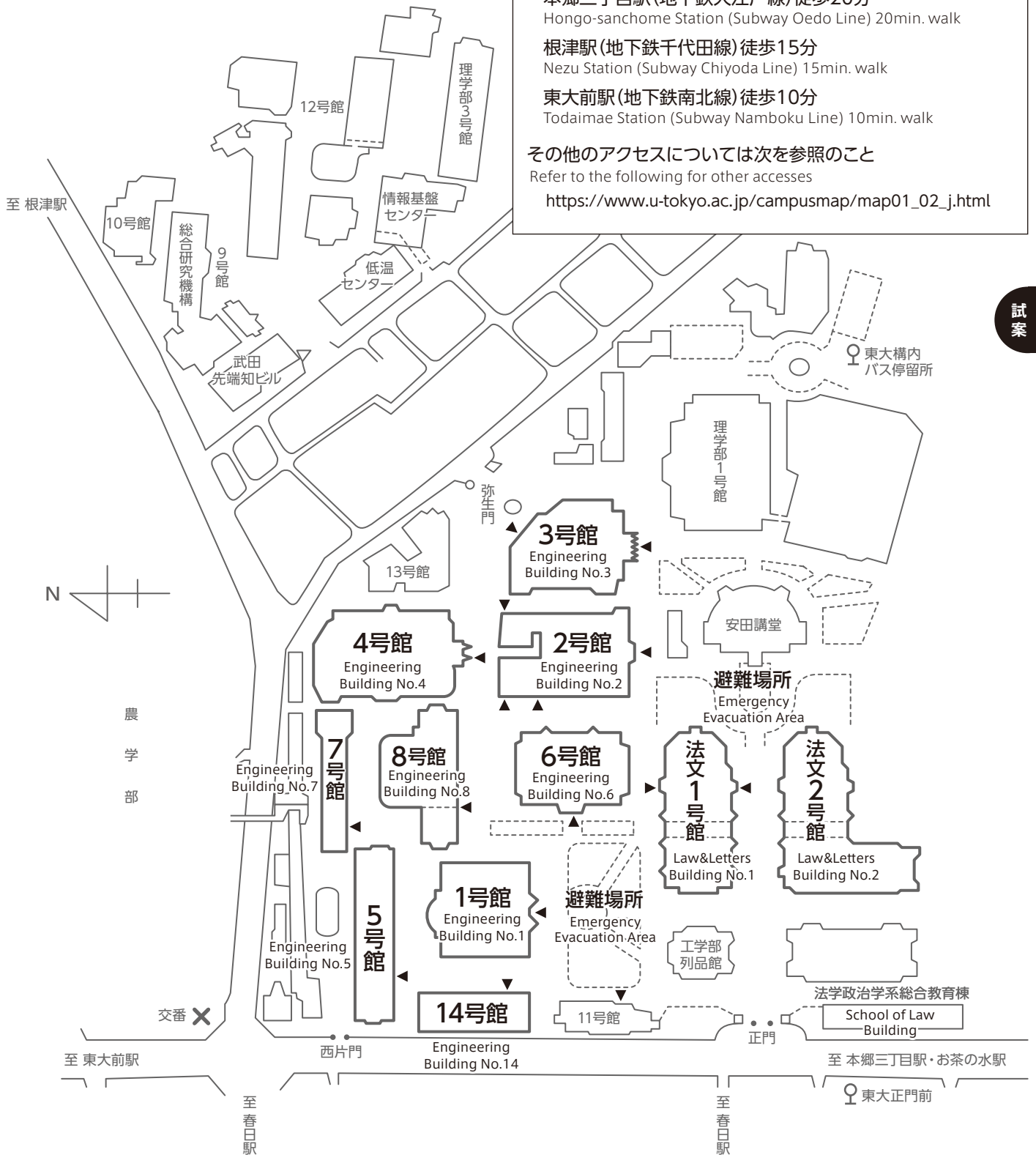
東大前駅(地下鉄南北線)徒歩10分

Todaimae Station (Subway Namboku Line) 10min. walk

その他のアクセスについては次を参照のこと

Refer to the following for other accesses

https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/map01_02_j.html



試験場案内